

正課外の英語学習支援プログラムに対する学生提案の実現 ～徳島大学語学マイレージプログラムに関するワークショップの企画を通して～

大岡桂一朝¹⁾、YOUN JAE HYUNG¹⁾、樫原 誉¹⁾、黒川雅通¹⁾、
塩川奈々美²⁾、飯尾 健²⁾、吉田 博²⁾

1) 徳島大学生物資源産業学部 2) 徳島大学高等教育研究センター

1. はじめに

徳島大学では、学生の目標・目的にあった語学力、コミュニケーション力、自己主導型学修力を養うことにより、十分な語学運用能力を持つ人材を育成することを目的に、語学マイレージ・プログラムを実施している。これは、外国語科目の成績や外国語技能検定試験の成績などがマイレージポイントとして加算されるものであり、在学中に700ポイント以上取得することが卒業要件とされている¹⁾。またマイレージポイントは、正課外で実施されている、英語によるワークショップ（以下、WS）やイベントに参加することでも加算される。しかしながら、これらのWSやイベントに参加している学生が多いとは言い難い。

そこで、徳島大学教育について考え提案する学生・教職員専門委員会「正課外における英語学習支援について考えるWG」では、正課外での英語学習に対する徳島大学生のニーズを明らかにするため、2019年度にアンケート調査を行った。さらにこの結果から、教養教育院の語学教育センターが開催するWSに対して学生視点からの提案を行い、2020年度後期に学生主体でのWSを企画、実施している。本発表では、徳島大学生の英語学習に対する意識を整理するとともに、学生が企画・実施したWSの概要及び成果と課題を報告することで、今後の正課外における英語学習プログラムの在り方について検討する。

2. 徳島大学生の英語学習に関する意識調査

本調査は、徳島大学の1、2年生を対象とした、回答者が特定されないwebアンケート形式で行われた。対象者2772名には、教務システムの掲示板を通じてアンケートフォームにアクセスす

るためのURLを送付し、2019年11月5日～15日までに1166名（回答率42%）の回答を得た。

まず、図1は大学で身につけたい英語力を示したものである。約8割の学生が会話力、次いで約6割の学生がリスニング力と、コミュニケーションに必要な英語力を身につけたいと考えていることが明らかになった。

一方で、図2が示す通り、語学教育センターが実施するWSを知らない学生や、知っていても参加しようと思わない学生を合わせると約8割にのぼる。WSに参加しない理由としては、図3の通り、「参加する時間がとれない」、「英語に対する自信がない」ことが上位となっている。

以上の結果から、正課外でのWSでは、学生のニーズとしてコミュニケーションを中心とすること、時間や英語力の障壁を取り払うことなどが、明らかになった。

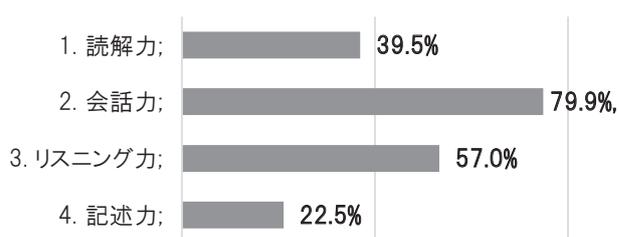


図1 大学で身につけたい英語力（複数選択）

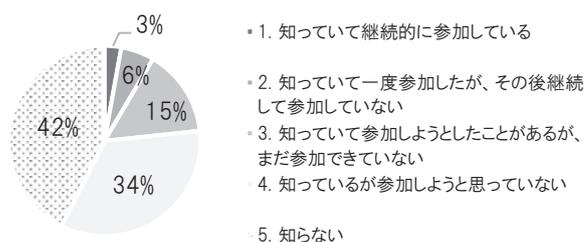


図2 ワorkshopへの参加度・認知度

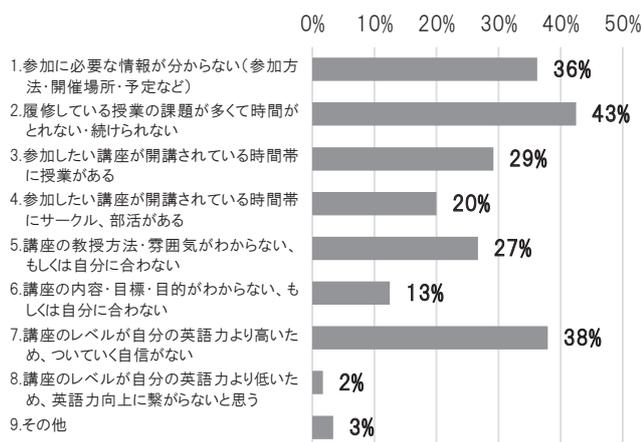


図3 WSに参加していない理由(3つまで選択)

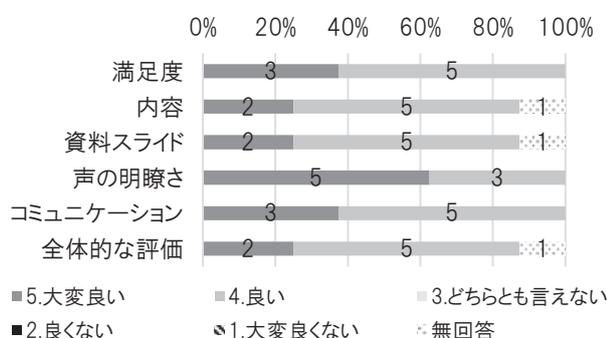


図4 WS参加者アンケート (n=8)

3. 企画したWSの概要

以上の結果をもとに、本WGでは教養教育院に対し、学生視点からのWSの活性化に向けた提案を行った。その結果、2020年度後期に教養教育院の許可を得て、カイザー・メイガン講師の協力のもと、「Zoomで世界旅行」と題したWSを実施することとなった。

WSの目的は、オンライン上での仮想の世界旅行を通して、英会話を楽しむことや異文化理解を深めることである。主な内容は、毎回1つの国をテーマとした、クイズ形式でのその国の世界遺産や伝統の紹介、および参加者同士の英語によるディスカッションである。特に、英語が苦手な学生でも参加しやすく、筆者ら企画者と共に英語を楽しめるよう、学生の興味を引くテーマ設定や、企画者の留学経験を交える等の工夫を行っている。

またWSの質を担保する方策として、カイザー講師が事前に紹介する内容を確認するとともに、アドバイザーとしてWSに参加している。

4. WSの成果・課題

2020年11月10日までに4回実施したWSには延べ9名の学生が参加した。毎回参加者にはプログラム終了後に無記名のアンケートを実施しており、図4に示すアンケート結果から、本WSは参加者から高評価を得られていることが分かる。加えて自由記述からは「動画内の単語を学習できた」という意見が挙げられているほか、参加者はWSで扱った内容を自分で調べたり、紹介した国に行ってみたいといった、異なる国・文化への関心の高まりが確認された。また、コロナ禍において学生同士の交流が少なくなる中で、本WSが受講者間での交流の場となっていることも示唆された。一方、課題としては、「もっとたくさん英語が話せると嬉しい」等、会話の練習を求める参加者のニーズへの対応が挙げられる。また、現状では参加者数が少なく、広報活動も課題である。

5. 今後の課題・提案

今回企画したWSは、正課外の活動ではあるが、大学の卒業要件に関わる語学マイレージポイントが加算されるものである。そのため筆者ら学生メンバーは、教育活動に関わるという責任を持って、12回分のWSの構成、およびそれぞれの担当回の準備・実施に取り組んでいる。これは担当者である学生にも大きな学びの機会となっている。一方で、負担も大きく、参加者のニーズへの対応や広報活動が難しいことが課題となっている。

徳島大学生の英語力を育成するためには、正課外における英語プログラムの充実も必要である。今後、このような正課外の教育プログラムに、継続して学生視点からの提案を反映させていくためには、企画に携わる学生の位置づけを明確にし、負担を適切に調整することが重要であると考えられる。また、現段階では着手できていないが、広報活動や学生のニーズに合わせた内容づくりなども進めていく必要がある。

参考資料

- 1) 徳島大学教養教育院ホームページ「語学マイレージ・プログラム」、<http://las.tokushima-u.com/language-education-center/program/> (2020.11.12 閲覧)